

船舶事故調査報告書

令和3年12月22日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	令和2年12月31日 16時29分ごろ
発生場所	大分県大分市大分港住吉泊地 大分港住吉西防波堤灯台から真方位132°780m付近 (概位 北緯33°15.1' 東経131°36.2')
事故の概要	貨物船伸興丸は、着岸作業中、着岸中の貨物船宝栄丸に衝突した。
事故調査の経過	令和3年1月12日、主管調査官（門司事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 貨物船 宝栄丸、504トン 143572、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機 構、大分海運株式会社 B 貨物船 伸興丸、499トン 137189、伸興海運株式会社
乗組員等に関する情報	A 船長A、四級（航海） B 船長B、五級（航海）
負傷者	なし
損傷	A 左舷船首部ハンドレールに曲損 B 右舷船尾部外板に凹損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北西、風力 5、視界 良好 海象：潮汐 上げ潮の初期
事故の経過	A船は、船長Aほか4人が乗り組み、大分港住吉泊地第14号岸壁（以下「本件岸壁」という。）に船首を北北西方に向け出船船尾着けで着岸し、無人の状態であったところ、左舷船首部にB船の右舷船尾部が衝突した。 B船は、船長Bほか5人が乗り組み、本件岸壁に着岸しているA船と、その西方約50mに船尾着けしている別の貨物船との間に船尾着けする目的で本件岸壁に船首を北北西方に向けて出船船尾着けで着岸作業中、両舷アンカーを船首方向に投錨して後進したところ、強い北西風を受けて右舷方に流され、船長Bが急いで主機を前進としたが間に合わず、右舷船尾部がA船の左舷船首部に衝突した。
分析	A船は、無人の状態に着岸中、B船が衝突したものと考えられる。 B船は、左舷船首方から風力5の北西風を受ける状況下、船長Bが、着岸作業を続けたことから、右舷方に流され、急いで前進としたものの、右舷方に着岸していたA船と衝突したものと考えられる。
原因	本事故は、B船が左舷船首方から風力5の北西風を受ける状況下、船長Bが着岸作業を続けたため、右舷方に流され、急いで前進とした

	ものの、右舷方に着岸していたA船に衝突したものと考えられる。
<b>再発防止策</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 船長は、船尾着けの着岸作業においては、風向きなどを考慮し、他船と十分に間隔が取れる着岸場所の選定や風が収まるのを待ってから着岸する等の措置をとること。</li></ul>